

## 大原社会問題研究所五十年史

## IV 東京移転より終戦まで〔一九三七～四五年〕

## 高野氏再び所長となる

一九四〇年一二月二三日、委員会(出席高野、久留間、森戸、大内、権田、後藤氏)が開かれ、寄附行為の一部改正案、次年度事業方針、予算案等について協議がおこなわれた。当日の決定事項は次のとおりである。

- (一) 当分の間、理事は森戸、久留間両委員が就任し、高野氏は所長となる。
- (二) 寄附行為を一部改正し、理事定数を三名とし、森戸、久留間、高野氏が就任すること。
- (三) 明年度事業方針、一九四一年度予算(四万六八九円)の決定。

高野氏は、研究所東京移転に際し所長を辞し、移転後は所長制を設けなかったのであるが、この委員会で全員一致を以て高野氏が再び所長に推され、同氏の承諾を得たのである。また常務理事は森戸氏、理事は久留間氏が、監事には前年にひきつづき林氏が就任した。委員は、高野、森戸、久留間三氏のほか、大林、細川、権田、後藤の諸氏である。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)